

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400022		
法人名	社会福祉法人 高洋会		
事業所名	グループホーム ちゃたん		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町字宮城1番793		
自己評価作成日	令和6年11月13日	評価結果市町村受理日	令和7年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

面会・外出制限を撤廃し、同一敷地内の通所介護、ボランティア活動、運営推進会議の開催など、外部との交流機会が大幅に増えています。週1回の外出支援では、地域の図書館や利用者様のリクエストに応じてドライブに出かけるなど、地域とのつながりを深めています。
 事業所内では、利用者様の自立を促すため、清掃、洗濯、畳みなど、可能な範囲での自立支援を行っています。レクリエーション、機能訓練、共同調理など、職員と利用者様が共に楽しみ、協力し合いながら生活を送れるような環境づくりに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4792400022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりの思いに添った支援に努め、手工芸の好きな利用者には紙での作品作りを支援し、余暇活動時に居室で過ごす利用者も支援し、「本を読みたい」という利用者の声を、ドライブ時に図書館で本を借りる支援に反映させている。居室に位牌を持ち込みたいとの利用者や家族の希望に対応して、毎朝お茶と水を供える支援もしている。外出支援を充実させ、利用者は地域の祭りや運動会等に参加し、イルミネーション見学等の夜間の外出支援も工夫して実施している。ドッグセラピーや読み聞かせ、マジックショーのボランティアを定期的に受け入れている。町の社会福祉協議会と協働して職員が講師を務め、地域住民向けの介護講習会を2回、開催している。沖縄県社会福祉大会で永年勤続者表彰を受けた職員が数名いる。運営推進会議に全利用者と家族代表、行政担当者が毎回出席し、各委員の出席率も高い。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和6年 12月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を詰所内に掲示し、意識し実践につなげられるように努めている。	「人材育成」と「顧客満足」、「地域貢献」を理念とし、年1回は会議で話し合い、新任職員にはオリエンテーションで説明して共有している。職員は利用者とのコミュニケーションを通して、一人ひとりの思いに添って支援し、地域と連携して外出支援を充実させる等、理念の実践に努めている。職員を「宝」として育成し、沖縄県社会福祉大会で永年勤続者表彰をされた職員が数名いる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を日常的に持てるよう地域の公民館でおこなっている「まーみな一会」の実施に向けて計画を進めている。また同一敷地内の通所介護、ボランティア受入れ、地域行事への参加と受け入れを積極的に行っている。	利用者は地域の祭りや運動会、認知症の方が集う自治会主催の「まーみな一会」に参加し、ハロウィンで子どもたちと交流している。町の社会福祉協議会と協働して地域住民向けの介護講習会を2回開催し、職員が講師を務めている。ドッグセラピーや読み聞かせ、マジックショーのボランティアを定期的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を行えていないが機会があれば参加したい。「まーみな一会」に合わせ認知症カフェを実施できるように計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の行事等の情報をいただき、外出支援や地域の祭りへの参加につなげている。	運営推進会議に全利用者と家族代表、行政担当者が毎回出席し、知見者や地域代表の出席率も高い。事業所は外部評価結果や事故等も含めて報告し、行政担当者の助言等がある。地域代表から地域行事等が、知見者から町社会福祉協議会の活動情報の提供がある。4月の津波警報発令時の対応や事故等について話し合い、事故防止のためヒヤリハットの重要性も確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町職員が参加されており、連絡等は取れている。また、町のグループホーム連絡会が定期的開催されており、その中で情報共有等を行っている。	管理者は、町主催で定期的開催されるグループホーム連絡会に参加して情報交換をしている。行政からの防災関係の研修案内には管理者と主任(計画作成担当者)が受講し、町の津波避難訓練には利用者も一緒に参加している。事業所は、公民館で「まーみな一会」を開催する計画があり、行政担当課と調整中である。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声かけの工夫や、転倒リスクの高い利用者については離床センサーで対応しており、身体拘束は行っていない。定期的に勉強会を実施しており、身体拘束についての理解を深めることに努めている。	スピーチロック等の勉強会を実施し、エレベーターや玄関は施錠していない。転倒リスクの高い利用者には離床センサーで対応し、園庭に出ようとする時は声かけや見守りで対応している。身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、委員会を2か月に1回開催して議事録を作成している。議事録は職員に周知しているが、議事録への確認欄の追記に期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の虐待防止委員会で指針を作成し定期的に会議を開催している。また定期的な勉強会を行い、虐待についての理解を深めるように努めている。	虐待防止については運営規程に定め、虐待防止のための指針を整備し、「認知症の方への接し方と話し方」等の勉強会を実施している。虐待防止のための委員会を設置し、担当者は委員長で、運営推進会議後に開催して議事録を作成している。議事録は職員に周知しているが、議事録への確認欄の追記に期待したい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者が現在不在のため、定期的に学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者にて利用前に本人と家族と面談を行い、十分な説明を行い、両者が納得の上で利用を開始してもらえよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なカンファレンスで利用者、家族と要望や意見などを聞く機会を設け、利用者とは日常生活のコミュニケーションの中で、家族とは面会時や電話連絡時に意見を聞く事ができるよう努めている。	日々、利用者とコミュニケーションをとり、「本を読みたい」という利用者の声を、ドライブ時に図書館で本を借りる支援に反映させている。家族の意見は面会時等に聞き、「字が書けなくならないように字を書かせてほしい」等の要望があり、対応している。全利用者と家族代表が出席する運営推進会議も意見や要望を聞く機会としている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や毎日のミーティングの中で職員からの意見や提案を取り上げて業務に反映できるように努めている。	管理者と主任(計画作成と介護を兼務)は、職員会議やミーティング時に職員の意見を聞く機会としている。職員から「日曜日は余暇活動をしたいので、日曜日の爪切り整容は曜日を変更してほしい」との要望があり、変更している。イルミネーション見学等の夜間の外出支援は、職員の意見を聞き、実施方法を工夫して取り組んでいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間内で、余裕を持ち利用者一人ひとりと関わる業務が行えるように適宜、業務内容の調整、見直しを行っている。	就業規則が整備され、希望に添った年次有給休暇の取得等が保障されている。沖縄県社会福祉大会で永年勤続者表彰を受けた職員が数名いる。健康診断を年1回(夜勤従事者は年2回)実施し、法人でストレスチェックを実施している。ハラスメント防止に向けた指針とマニュアルを整備し、相談窓口を設置しているが、職員研修は未実施である。	ハラスメント防止に向けて職員への周知を図るための研修の実施、及び相談窓口は男女ともに設置することが望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人員配置の問題もあり外部研修の受講が減少している。事業所内での勉強会を定期的に行い学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に町内グループホーム連絡会に参加し、情報交換等を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者が、利用前に本人、ご家族と面談し、本人の思いや困っていることなどを聞き出すようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者が、利用前に本人、ご家族と面談し、ご家族の思いや困っていることなどを聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に本人、家族と面談を行い、アセスメントを取ることで他のサービスも含め、必要としている支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自宅での生活習慣を入居後も継続できるように、位牌へのお茶のお供えなどを一緒に毎朝行うなど、出来る限り個々に合わせた対応を心がけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日用品等、必要なものについてはできるだけご家族に持ってきてもらうようにして来所し面会する機会を多く持てるようにしている。また、必要に応じて電話などで本人の状況を伝えるようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで、本人のなじみの場所へ行ったり、敷地内の通所介護に古い友人との交流を行いながら、なじみの関係が継続できるように支援している。地域の運動会などの地域の行事にも参加している。	利用者の地域社会での関係性は、利用前の面談や日常の会話を通して把握に努めている。ドライブ時に利用者が住んでいた場所を個別に訪問し、地域の祭りや運動会等に利用者と一緒に参加して関係継続の支援に努めている。下の階にある同法人の通所介護事業所の友人と互いに行き来して交流する利用者や馴染みの理容室へ出かける利用者への支援もある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクやゲーム、雑談会等を行うことで利用者同士と一緒に参加しコミュニケーションが取れるように支援している。認知症の影響からトラブルになりそうな事も職員が間に入って交流の支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても家族が今後の不安等の相談があれば支援できるよう声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る範囲で本人の希望が選択できるように、朝食の飲み物を毎朝確認し、選択出来るようにしている。 普段から本人の行いたい事を傾聴し、要望が実現できるように出来る範囲で努めている。	職員は、日常的に利用者とのコミュニケーションを図り、思いや意向の把握に努めている。本が好きな利用者に図書館で本を借り、手工芸の好きな利用者には紙の作品作りを支援し、余暇活動時に居室で過ごす利用者もいる。夜間のトイレ回数を気にする利用者の悩みを医者に相談して体重を減らすことを助言され、主食の量を減らしている事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の本人と家族の面談時や情報提供書、などで把握するようにしている。また、入居後は、雑談などで出てきた話題をもとに把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態確認を毎日のミーティングや定期的な会議の中で、本人にあった生活が送れているかを確認し職員間で情報共有に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状況の変化があれば、家族と情報を共有し主治医などの意見を伺い計画に反映するよう努めている。また定期的なカンファレンスに本人、家族を交えケアの方向性を再検討している。	担当者会議で利用者と家族の意向を確認し、職員や主治医の意見も反映させて介護計画を作成している。「位牌に毎朝お茶を供える」や「端座位の保持訓練」等、個別計画を作成している。計画の長期目標を1年、短期目標を6か月とし、モニタリングを半年毎に実施している。計画の定期的見直しは1年で、状態変化に応じて支援内容を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察や記録を行い、状態変化があればミーティングや会議で情報共有し、新しい課題が表出した際は検討し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない際の病院受診の送迎を行っている。また業務にとらわれず、利用者の意向があれば臨機応変に買い物など外出支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館を定期的に利用する、地域の祭りに参加する等、本人が楽しめるよう地域資源を活用している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ既存のかかりつけ医を利用するように勧めている。家族の希望があれば往診が可能な医師を紹介している。	利用者6名はかかりつけ医を受診し、3名は訪問診療を利用している。受診時は利用者の日頃の状況を事前に文書で主治医へ伝え、家族から結果を聞いている。他科受診に関して、基本は家族同行となっているが、家族の付き添いが困難な場合は職員が対応し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自事業所には看護職員の配置は無いが、同敷地内の事業所に看護職員がいるため、利用者の体調等についてアドバイスをもらうことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は適宜、医療相談員と連絡を取り合って情報の共有に努めている。受診を検討する段階で主治医との相談を行うように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と必要に応じ事業所で終末期の対応が出来ることを説明するとともに、他の施設の特性を説明し、施設を変える事も含め選択でき、本人、ご家族が安心して終末期を迎えられるよう努めている。	重度化や終末期に向けた指針が整備され、契約時に利用者や家族へ重度化した場合の事業所の方針を説明し同意を得ている。希望があれば看取りケアについて検討しているが、今年度は利用者や家族からの希望はなく、看取りケアは行なわれていない。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応方法についての訓練を行っている。またミーティングの中で緊急時の対応方法を確認するよう努めている。	急変や事故発生時のマニュアルを整備し、緊急時の連絡体制がフローチャートで表示されている。定期的に緊急時の対応方法についての訓練も行っている。事故発生時は、事故報告書を作成し、再発防止策等も記入して職員に周知しているが、確認欄がない。議事録を職員に周知徹底することで更なる事故の再発防止の取り組みに期待したい。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	避難訓練は定期的に行っているが、地域との協力体制は築けていない。 感染症の予防、まん延防止の為に委員会を設置し研修及び訓練を行っている。	災害発生時、感染症発生時の指針と業務継続計画が整備されている。感染症の予防やまん延防止のための委員会も設置されており、各研修も実施している。水や食料品等の備蓄は利用者や職員の3日分が備えられており、保管場所も全職員が周知している。令和6年1月と7月に日中想定避難訓練を行なっているが、夜間想定避難訓練が実施されていない。	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるためにも、昼夜を想定した年2回の避難訓練の実施が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にミーティングや会議の中で利用者に対する声掛けや態度、プライバシーの保護に関する接遇の重要性について話し合いを持つように努めています。	事業所はプライバシー保護マニュアルを整備し、定期的に勉強会を開催している。毎朝の体操や趣味活動に声かけは行なうが、参加を強制することなく、利用者のペースでの見学や居室で自分の好きなように過ごすことも支援している。携帯電話を所有している利用者もあり、家族と電話で会話ができるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの「やりたい」を尊重し可能な限り、対応していくように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、日課活動参加等の声掛けを行っているが、本人が過ごしたい活動を優先するように心がけている。 余暇時間も多いため、居室でテレビ鑑賞、読書、趣味活動を行うなど様々です。 自己主張が困難な方へは本人に合わせた活動を勧めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類などは本人に聞いて決めてもらっている。また、家族と協力し、古くなった衣類などがあれば交換してもらうようにしている。また定期的に訪問美容室を利用していただいている。整容の日を設け爪切りやムダ毛の処理を行う。時にはマニキュアを塗ることもある。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや、月1回程度、利用者と一緒に昼食作りを調理、盛り付け、片付け等楽しみながら行っている。 又、朝食の飲み物を、コーヒー、ミルク、カフェオレ、それぞれアイスかホットか選択できるように毎朝確認し提供している。	月1回の昼食作りや週1回のおやつ作りには5名の利用者が下ごしらえや調理を行っている。イベント時は利用者の好きな食べ物を提供し、家族の手作り弁当を差し入れしてもらい等、食事を楽しむことができるように支援している。厨房職員の休職により、現在は3食とも配食を利用しているため、一時的に職員は利用者と一緒に同じ食事を摂ってはいない。	家庭的な生活の中で、利用者と職員が同じ食事を、同じ場所で、一緒に摂ることの意義を理解し、食事を楽しめる環境づくりの工夫が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事、水分量のチェックを行い職員間で日々のミーティングで情報共有を行い、摂取量が少ない際は水分の促しを行ったり、本人の好むものを準備し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個々の必要に応じた口腔ケアを実施。本人ができない部分は職員が支援している。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンに合わせて、排泄の促しやトイレへ案内する等、アプローチを心がけている。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄パターンやタイミングを把握し、排泄への意思表示のない方にも声かけてトイレへ案内し、日中はできる限りトイレでの排泄が行えるように取り組んでいる。夜間は3名がベッド上での介助で6名はトイレやポータブルトイレを使用している。日頃より下肢筋力が低下しないように運動を行ない、排泄動作の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取を促しており、排便状況を確認しながら主治医と相談し下剤の調整を行っています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は設定されていますが、本人の意向があれば、時間や曜日を変更したり、同性介助が対応できるよう努めています。	基本的には週2回、午前中の中の入浴となっているが、利用者の希望や気分によって入浴回数や時間帯等に対応している。同性介助の対応ができない場合は本人へ説明し、日を替える等の対応をしている。ヒートショック防止のため、冬は脱衣所にヒーターを設置している。夏は扇風機で快適な空間での入浴が行なえるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の体力や生活習慣を考慮しながら休息を促すように努めている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の内服の説明書をファイルにまとめて、いつでも確認できるようにする事で内服薬の把握に努めている。内服のチェック表、マニュアルを整備している。	1件の誤薬が発生し、再発防止策等を検討して議事録を作成し、職員に周知している。服薬マニュアルを見直して対応し、その後の事故発生はない。マニュアルに沿ったケアの徹底により更なる安心・安全な服薬支援、及び職員への周知徹底のため議事録への確認欄の追記に期待したい。主治医と相談して安定剤を調整し減薬に繋がった利用者がある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの飾り付けや小物作り等を、職員と共に作成し展示するなどし楽しみながら生活を送ることが出来ている。又、毎日同じ活動が続かないように心がけ、マンネリ化しないように努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の日用品の購入、町立図書館の利用、博物館見学等、外出する機会を多く設けている。又、「選挙に投票したい」との利用者からの要望等があれば、家族へ協力してもらえるよう調整する等出来る範囲で要望に添えるように努めている。	週1回程はドライブに出かけ、図書館で本を借り、買い物をし、本人が住んでいた場所や馴染みのある場所へと、利用者全員が交替で外出できるように支援している。天気の良い日にはベランダでの外気浴や野菜等の栽培活動を行なう利用者もいる。地域の祭りや運動会等へも参加し、地域の人たちとの交流も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々が自由に買い物や外出支援が行えるように、こずかいを管理している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの訴えがあれば、電話ができるよう対応しています。また希望する利用者は個人用の携帯電話を持たせて、職員が電話を掛けたり受けたりの支援を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適宜、掃除や換気を行っている。季節ごとの飾りつけを行い、季節感を感じてもらいながら楽しんでもらっている。事業所内の好きな場所で各々が自由に過ごしてもらっています。	食堂兼リビングにはテーブルが配置され、壁には季節に合わせた飾りつけやカレンダー、時計が設置されている。座席の配置は決まっておらず、利用者は好きな場所で新聞を読んだり、テレビを観たり、会話を楽しんだりして過ごしている。ベランダにはネギやトマト等の野菜の苗が植えられており、水かけや草取り等をする利用者もいる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置は固定せずに、自由に共有スペースを共用できるよう心掛けているが、事故や体調不良時等の見守りが必要な利用者は制限する事がある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が作った作品や家族の写真を飾ったり、入所前に使い慣れた物品を持ち込んでもらうように努めています。毎朝、位牌のお茶とお水を交換する習慣があった利用者は入居時に事業所に持ってきてもらい、毎日の習慣を継続できるよう支援している。	居室にはタンスやベッド、エアコン、加湿器、時計、カーテン等が備え付けられている。利用者はテレビや家族写真、本、カレンダー等を持ち込み、手工芸作品を飾ったりしている。位牌を祀っている利用者もいる。居室ドアは花の名前で記されており、和やかな雰囲気を感じられるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が移動する動線の環境整備を行い、ヒヤリハットや事故が起きた際、環境の見直しを行うように努めています。利用者が安全に自立した生活が送れるよう心掛けています。		